

スギ花粉症

今年のスギ花粉の量がここ数年でいちばん多かったため、花粉症の症状が重くつらい思いをされた患者さんがたくさん受診されました。

また、小児も症状が強い傾向にありましたが、発症年齢も低年齢化し3歳前後での発症が目立っていました。

これらはおもに花粉量が多かったことが原因と思われるのですが、およそ3年間新型コロナウイルス以外の感染症が激減していたこともあり、アレルギー反応が強くなっているのではないかとの説もあります。



✿花粉症に使われる主な薬

*鼻水・くしゃみの内服薬

抗ヒスタミン系アレルギー薬

*鼻づまりに効果がある内服薬

ロイコトリエン拮抗薬

*点眼薬

抗ヒスタミン系アレルギー薬

*点鼻薬

ステロイド薬

症状のある部位、症状の強さなどにより薬が組み合わされて使用されます。

今年花粉飛散量が多かった分、来年はスギ雄花の量が減るため、今年よりも症状は軽くなるかもしれません。シーズン中の症状を緩和させるには花粉の飛散する1週間前くらいから内服を開始すると良いという報告もあります。

幼児でも点眼薬は使われますし、5〜6歳になれば点鼻薬も使用可能です。

小児科では内服薬、点眼薬、点鼻薬も処方しています。

子どもの急病で困ったら

日本小児科医学会ではHP上で、子どもの急病時の情報へのアクセス手段を提示しています。

○#8000

ここに電話をすると、すぐに医療機関を受診すべきか家で様子を見てよいかの目安と、家での対処法などを相談員がアドバイスをしてくれます。

○子どもの救急 (ONLINE-QQ)

6歳以下の小児が対象。病院受診か自宅療養かの目安がわかる。気になる症状への対処法を知ることができる。

○子どもの救急ガイドブック

都道府県ごとに作成している。群馬県では「**子どもの救急ってどんなとき?**」

<https://www.pref.gunma.jp/03/d1010006.html>

○ぐんま統合型医療システム

今現在、受診できる医療機関を探すことができる。

<https://www.med.pref.gunma.jp>

子宮頸がんワクチン

子宮頸がんワクチンは、2価と4価の二種類が定期接種になっていましたが、今年の4月から9価も定期接種の対象となりました。

悪性度の高い16、18番の他にさらに7種類をカバーするのでがん予防効果が高くなります。

すでにウイルスに感染している場合は予防効果がないので、性交渉を経験する以前の9歳〜17歳での接種が勧められています。

◎9価ワクチン

9歳以上の女性に3回接種されますが、9〜15歳未満では6〜12カ月の間隔での2回接種も可能となっています。

日本ではワクチンの副反応が大きくとりあげられたため、約8年間、接種をする人はわずかでした。その間、100か国以上の国で接種が進み、効果・副反応のデータが集められました。

スウェーデンでは、16歳までに接種した場合、子宮頸がんのリスクが88%減りました。

副反応については、接種部位の発赤、腫脹、疼痛などは他のワクチンと同様で、統計学的に有意なリスクはなかったということです。